

## 実践ノート

# 「自分の成長を考えるワーク」へのきゅうちゃんの活用 —看護専門学校1年次学生を対象として—

村山信子<sup>1)</sup>・石田ゆき<sup>2)</sup>

MURAYAMA Nobuko ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・きゅうちゃん・自己成長・就学意識

### I. はじめに

「きゅうちゃん」は全国看図アプローチ研究会のマスコットキャラクターであり、石田が発案・開発したビジュアルテキストである（石田2022）。「きゅうちゃん」の活用方法については『全国看図アプローチ研究会研究誌』において様々な事例が報告されている。石田（2023）は「きゅうちゃん」について、「学習者の緊張感をほぐし、自己開示させることが得意である（p.31）」と述べている。このような特徴をいかし、今回「きゅうちゃん」を活用して、看護専門学校の1年次学生を対象に自己成長を考えるワークを行った。

### II. 授業の背景と目的

第1筆者（村山）の勤務校は、3年課程の看護専門学校である。各学年2クラスで構成され、今年度の入学者は77名である。各学年とも、学生の主体的学習を支援することを目的として、科目外教科時間に「グループ学習」という時間が設けられている。その企画は、担任教員及び支援担当教員が支援方法の検討、企画・運営を行っている。ここ数年、学生が主体的に学習する力を持てるよう、学生自身で自己学習計画を作成し、自身で達成度を評価・修正することを支援している。加えて、グループワークを求める主な企画として、人

間関係づくりの基礎となるような「自分探しのワークショップ」や「チームワークのワークショップ」などを取り入れている。また、実習前には実習施設毎にグループ目標の設定と評価を行っている。

第1筆者は今年度1年次生の担任となり、グループ学習の企画・運営を行うこととなった。当初、例年度通りの自己学習計画の作成について検討した。しかし、近年は学習継続に困難を感じ就学意欲の低下から休学となる学生や、実習のストレスに向き合えない学生も散見される。このため学習計画の作成や遂行を支援することも大切であるが、就学に向けた意欲を支えることが大切ではないかと考えた。そこで関係教員で検討した結果、主体的な学習に向かうために前向きな気持ちを維持することや、仲間との交流で困難を乗り越える体験を支援することをねらいとして「グループ学習」の目標を3つ明示した。次の3つである。

1. 他者の考えを聴く、自身の考えを言うことを通して、傾聴力、発言力、プレゼンテーション能力を高める。
2. 他者の良い点を参考にしながら、自身の自己管理やスケジュール管理ができるようになる。
3. 1年後の自分の姿に向けて段階的に成長していける。

1) 北海道看護専門学校  
2) 日本医療大学

上記3つを目標にして、今年度は5回（4月・5月・7月・10月・2月）のグループ学習を企画した。今回紹介する「きゅうちゃん」の活用実践は、グループ学習としては2回目であり、2024年5月に行った。当初、5月の企画として、看護学生として段階的に成長して欲しいという思いから、次のようなワークを検討していた。3ヶ月ごとの自己の成長目標を設定し文章化する。最終的（1年後）にはどのような看護師になりたいかをイメージし、文章化する。グループ学習毎に目標設定した3ヶ月の評価と課題の明確化と次なる目標設定を行う。それらをグループで共有する。

しかし、入学からひと月しか経過しておらず、医学や看護学の学習に戸惑う学生たちが、3ヶ月後の自分を想像することは困難であることが予想された。また、なりたい看護師像の表現化を求めても、「勉強をがんばる」といったありきたりな表現や「優しい看護師」「患者に寄り添う看護師」「信頼される看護師」といった一般的な看護師像の表現に留まるのではないかと懸念された。

自分の成長を考える時間を設けることは、内なる自分と向き合うことである。実感に乏しい一般的な言葉で表現することよりも、どんな自分になりたいのかという問いに素直に、真剣に、そして楽しく向き合って欲しい。グループ学習の時間を学生にとってできる限り充実したものになりたい。そのような思いから、担任教員間で企画の検討を進めた結果、次のような結論に至った。

「看護学生」としての成長に縛ることなく、「これからの自分」をどのように成長させたいかを考えてもらう。そして、具体的にどのように取り組んでいくのかを考えてもらう。そのような機会を作ることで、学生自身の素直な思いが表出され、自然と前向きに進んでいくことができるようになるのではないかと考えた。

### Ⅲ. きゅうちゃん活用の実際

「自己成長」をテーマとしたきゅうちゃんストーリーの作成は以下のようにして行った。

(1) 「きゅうちゃん」絵図約 240 個が印刷された絵図シート(A4 シート 4 枚)を配付する。(図 1)

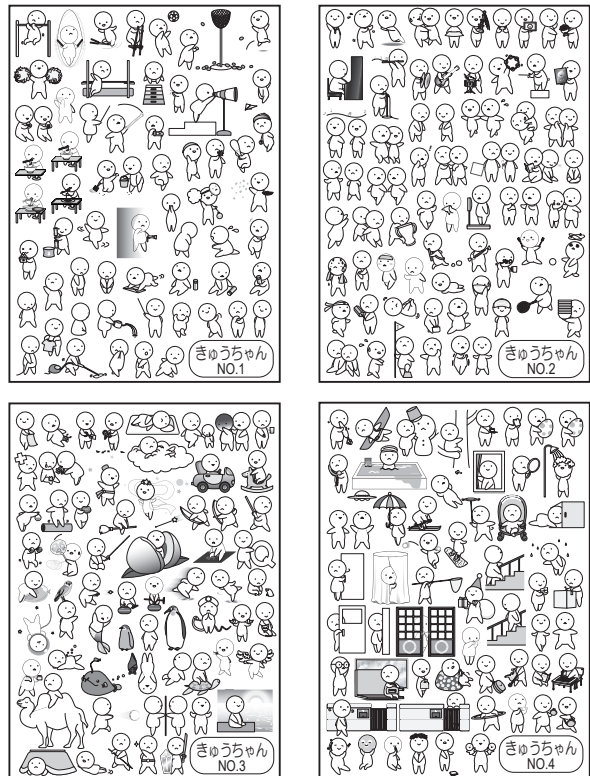


図 1

(2) 「自分を育てよう」のページになる用紙 (A4 版に 2 枠) を 3 枚配付する。(図 2)

学籍番号	名前
ページ番号 ( )	
[Large empty box for drawing]	
ページ番号 ( )	
[Large empty box for drawing]	

図 2

(3) 教示

スライド (図 3 ~ 5) を示しながら次のように伝える。

あなたはきゅうちゃんです。きゅうちゃんは看護学校に入学しました。でも入学したことはきゅうちゃんの本物のゴールじゃありません。きゅうちゃんはこれからもっとたくさん成長していきたいと思っています。きゅうちゃんにどのような成長をしてもらいたいですか。きゅうちゃん（自分）の育て方を考えてください。

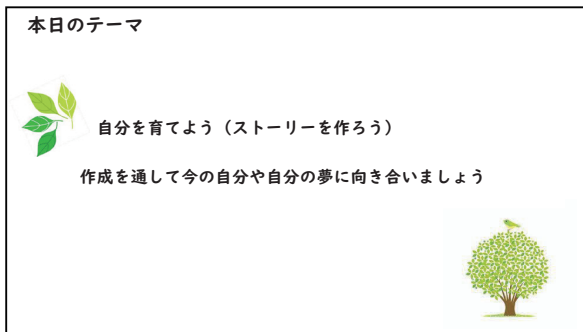


図 3



図 4

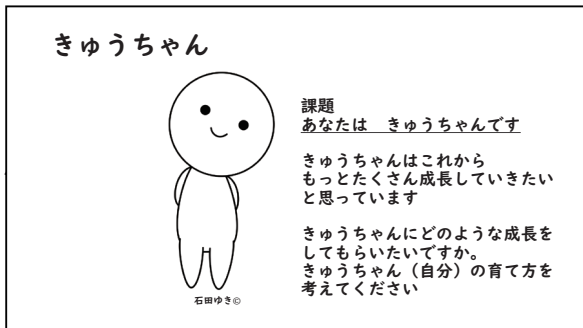


図 5

(4) この後石田ら（2019）の論文より作品を1つ見本として紹介する。（作品の掲載は省略）

(5) 実施手順（制作時間 65 分）

スライド（図 6・7）を示しながら次の内容を伝える。

① 1 コマ目はタイトルにする。

\*テーマは自分を育てることに関わるがタイトルや表現は自由である。

② きゅうちゃんを切り取ってシートの枠に貼り、セリフやナレーションをつけていく。

③ きゅうちゃんシートはどれを、何枚使用しても OK。色を塗ったり、背景を描き足したり、別のきゅうちゃんを手描きで足しても OK。

④ ストーリーは 4 コマ以上～6 コマ以内で表現する。

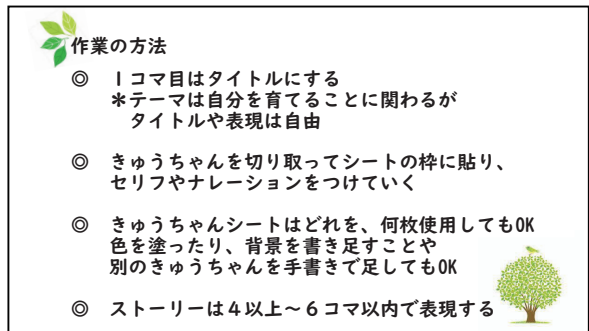


図 6

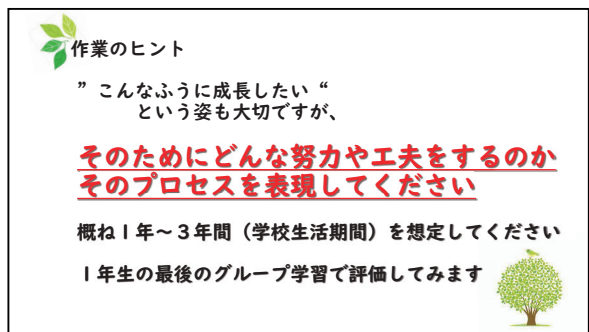


図 7

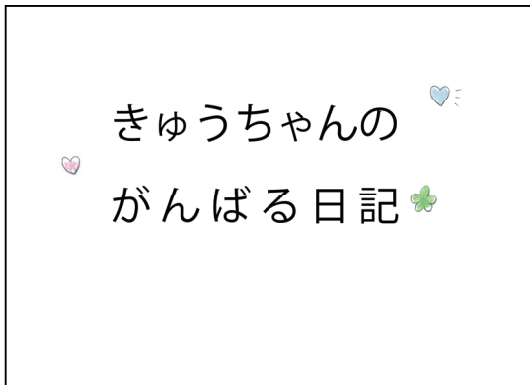
作品の提出は翌朝授業開始前とした。1/3 程度の学生は時間内に完成し終わっていた。ストーリー構成がすぐに考えつかない学生は、隣の学生に相談したり、インターネットでしきりに何かを検索したりなど様々であったが、自由に制作してもらった。

#### IV. 作品紹介

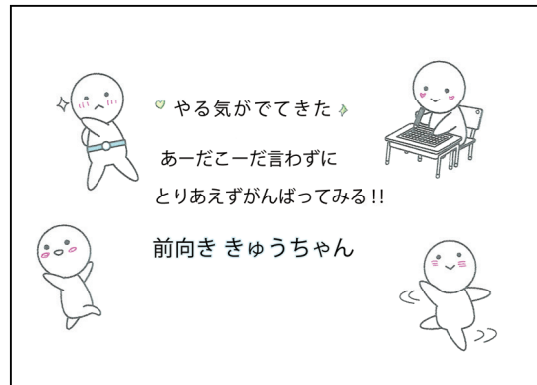
多くの作品で、職業選択の理由として、誰かを助けたい、誰かの役に立ちたいという思いが語られていた。同じような思いであっても、一人ひとり切り取るきゅうちゃんは違い、学生なりのきゅうちゃんを使って自分自身の目指したいことが表

現されていた。以下に作品を紹介していく。作品の掲載については書面にて承諾を得ている。また、学生7と8の作品は完成度がとくに高く、その味わいや雰囲気を壊さないために別途「手書き文字のままでの掲載」について承諾を得た。なお、明らかな誤字脱字等は修正している。

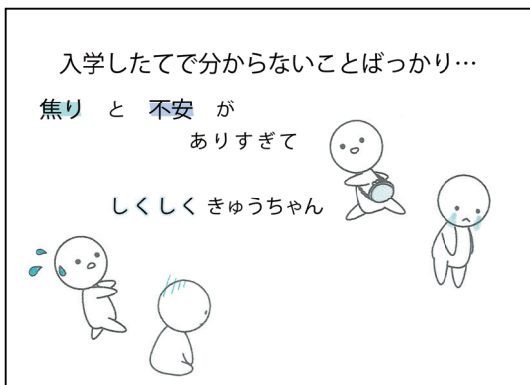
#### 学生1の作品



(p.1)



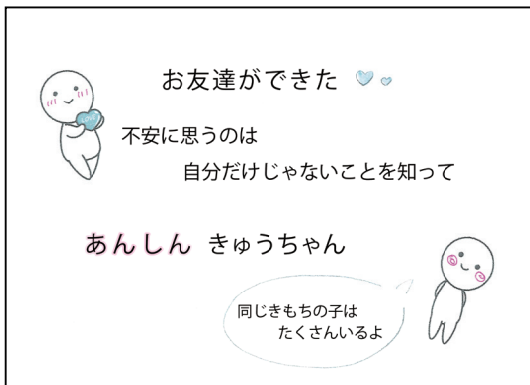
(p.4)



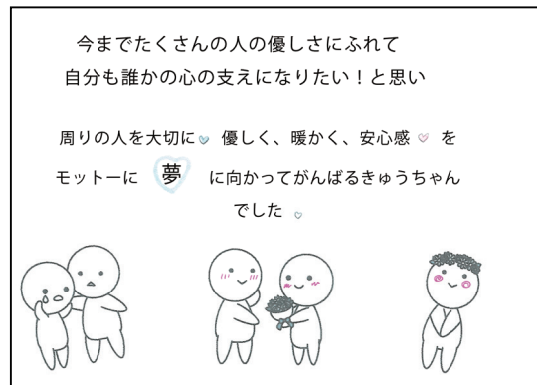
(p.2)



(p.5)



(p.3)



(p.6)

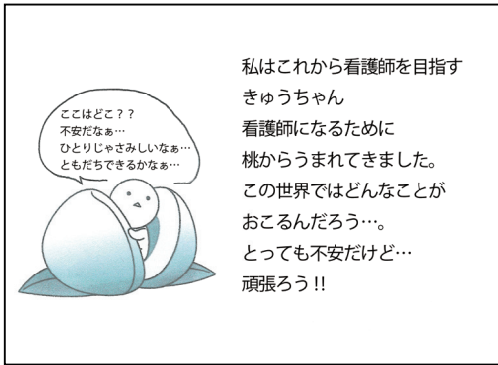
学生2の作品



(p.1)



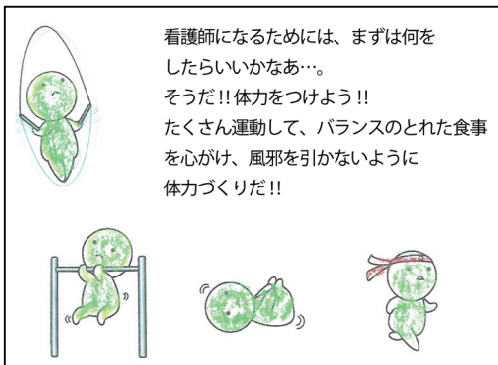
(p.5)



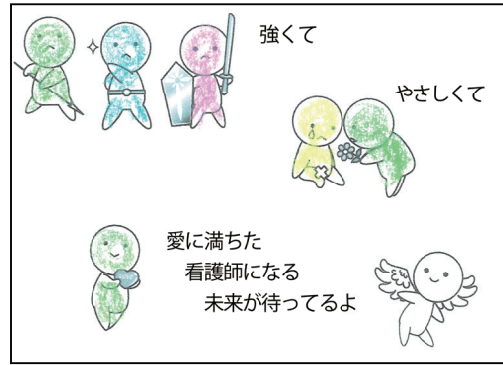
(p.2)



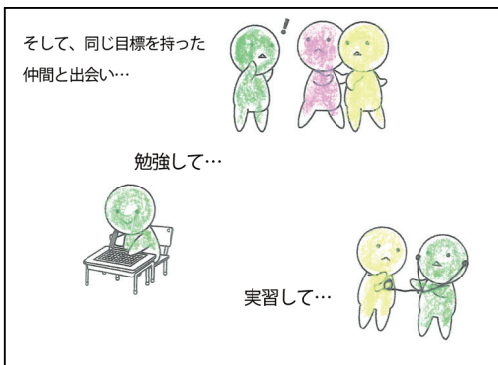
(p.6)



(p.3)



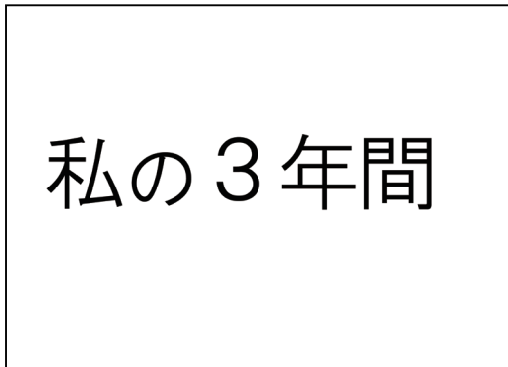
(p.7)



(p.4)

学生1は、入学したばかりで不安な心境でありながらも、周囲の人たちから力をもらって前向きに進もうとする気持ちを表現している。さらに看護師になりたい動機にふれ、意欲の高まりが表現されている。学生2の作品は、タイトルから看護師になることへの強い意志が感じられる。(桃から生まれて) 新たな世界として看護学校での生活を表現しており、自身の健康を基本としながら、周囲の人との協同を通して成長していくプロセスが描かれている。

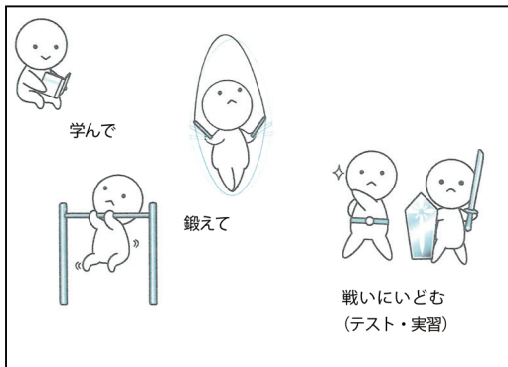
学生3の作品



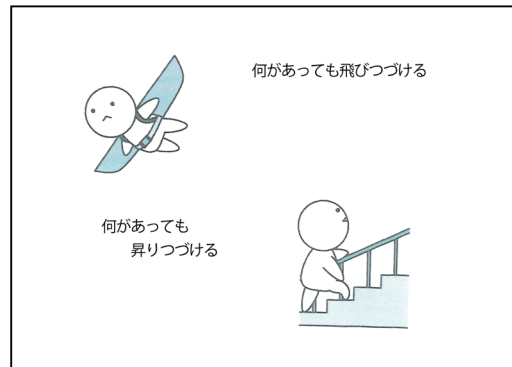
(p.1)



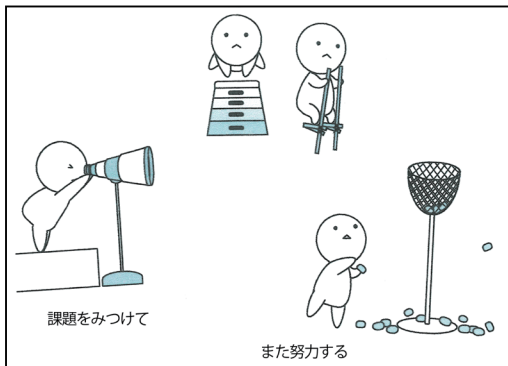
(p.5)



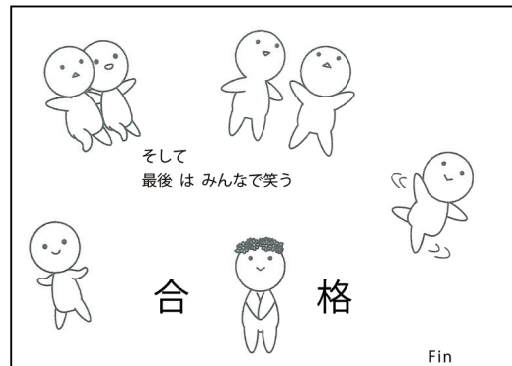
(p.2)



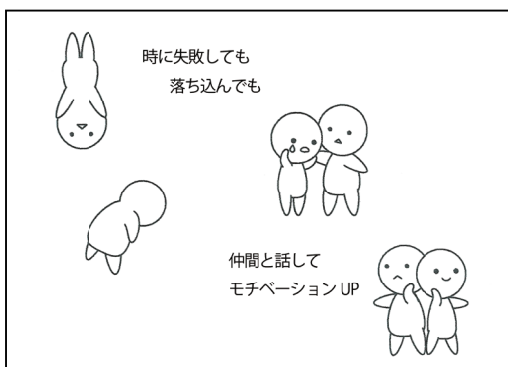
(p.6)



(p.3)



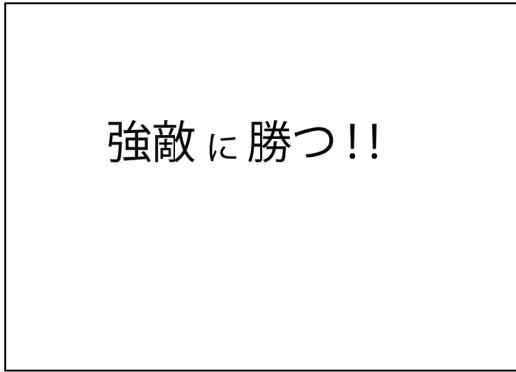
(p.7)



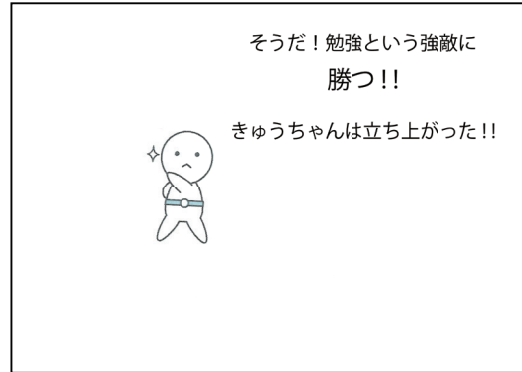
(p.4)

学生3の作品は、短いことばの繋がりに、決して諦めないという決意が込められたものとなっている。コツコツと努力し、仲間と助け合いながら国家試験に合格するまでの3年間を描いてくれている。

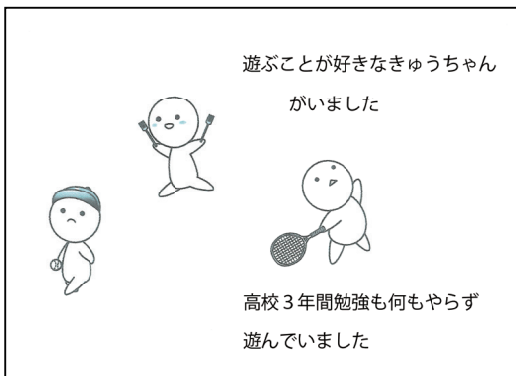
学生4の作品



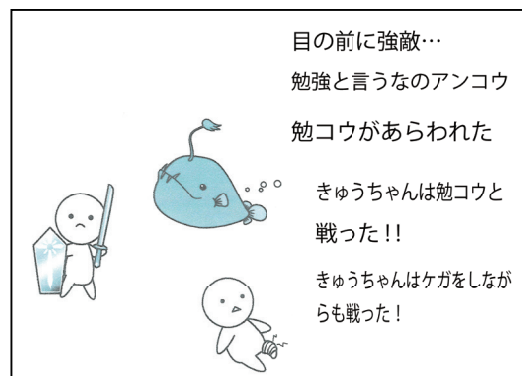
(p.1)



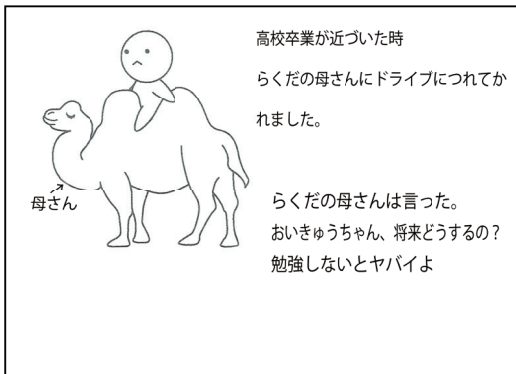
(p.5)



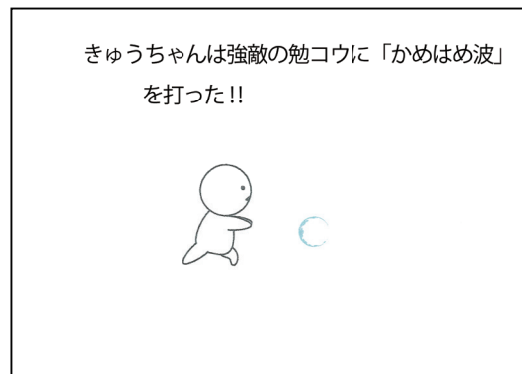
(p.2)



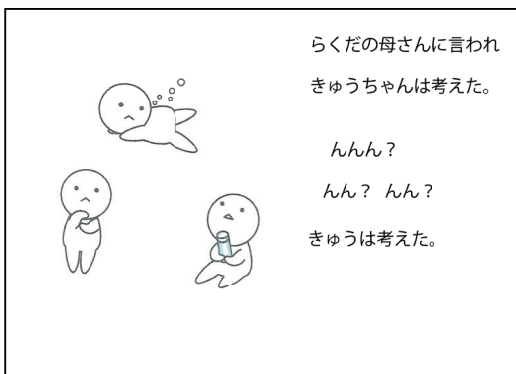
(p.6)



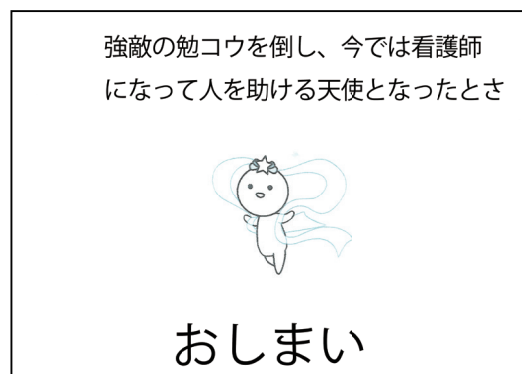
(p.3)



(p.7)



(p.4)



(p.8)

学生4は、「らくだの母さん」というユニークな母親のキャラクターに背中を押され、「勉強（勉強）」という強敵に打ち勝つ力強いストーリーを描いた。看護師となるためには勉強することが

大切であり、これまで戦うことなかった相手（勉強）に挑戦し勝つという成長ストーリーを描いている。

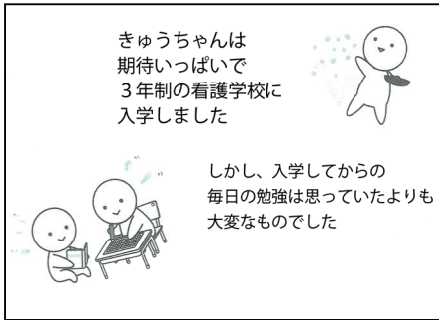
学生5の作品



(p.1)



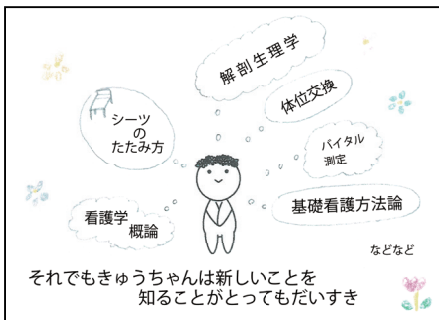
(p.5)



(p.2)



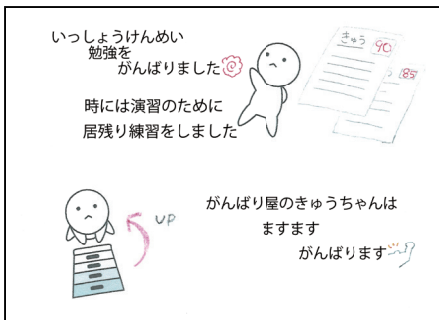
(p.6)



(p.3)



(p.7)



(p.4)

学生5は、学ぶことがたくさんある学生生活の中にあっても、「新しいことを知ることがとってもだいすき」と非常にポジティブな気持ちを表現してくれている。看護師になってからも成長し続けたいという意志が感じられる。



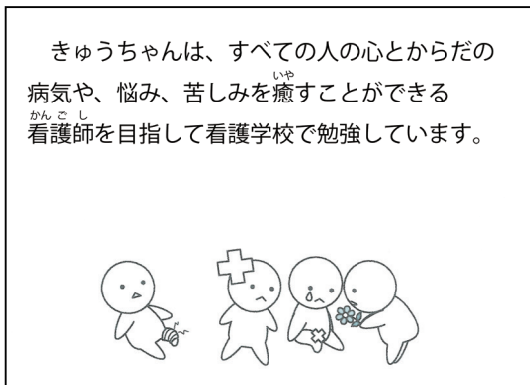
学生6の作品



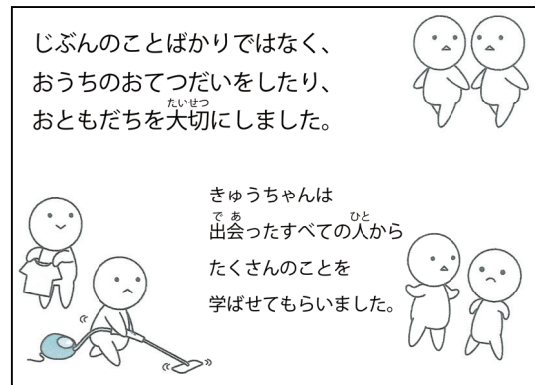
(p.1)



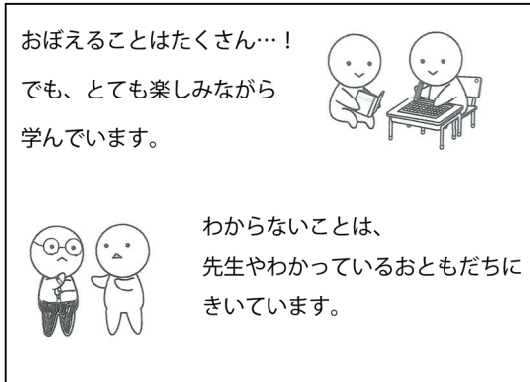
(p.4)



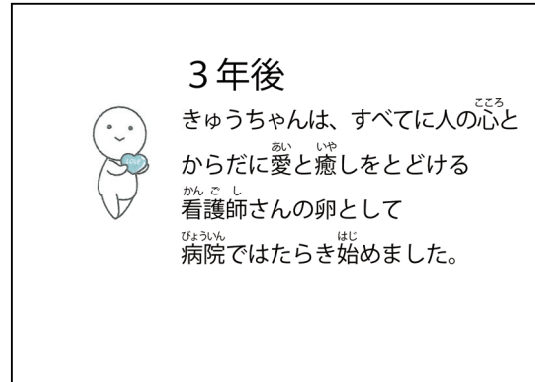
(p.2)



(p.5)



(p.3)



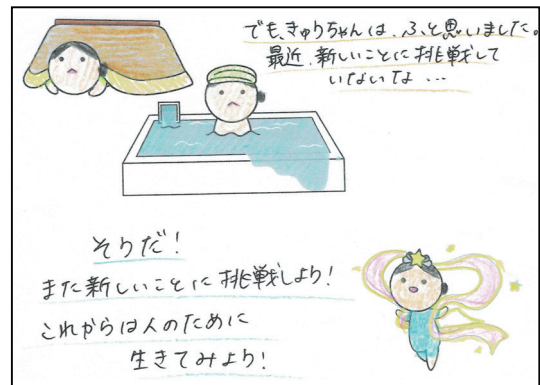
(p.6)

学生6は、自身が実践すべきことを理解し、実際に実践し、精力的に歩んでいる様子を描いている。「出会ったすべての人」を大切に、他者を尊重することが描かれており、なりたい看護師像が描かれている。

学生7の作品



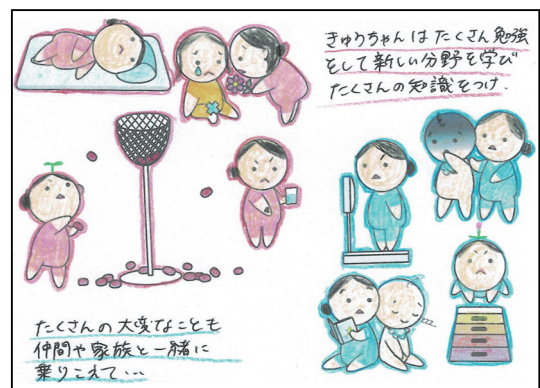
(p.1)



(p.4)



(p.2)



(p.5)



(p.3)



(p.6)

学生7は、自身の経験をいかし、たくさんの人のために生きたいと考えようになったプロセスを色彩豊かに描いてくれている。看護師を目指す事が自分自身の成長そのものであるという姿が描かれている。

学生 8 の作品



(p.1)



(p.5)



(p.2)



(p.6)



(p.3)



(p.7)



(p.4)

学生 8 もまた、彩り豊かに、きゅうちゃんをたくさん使い、日常で抱くたくさんの感情を表現してくれている。自分の人生を見つめ、看護師になるために何事にも楽しんで取り組む姿が描かれている。

## V. 考察と今後の課題

紹介した以外の作品では、例えば学生1と学生2の作品のように、入学後の不安を自分なりの方法で解決しながら看護師を目指したいという思いが語られている作品が多かった。またほとんどの作品は学生4や5の作品と同様に看護学校での学習に主体的に向かう姿が描かれていた。学生7や8のように自分自身の成長を実現することを目指して看護学校を志望してきたと表現する学生は社会人経験者に多かった。

多くの学生が、将来の職業として看護師を選んだ経緯について語ったり、自分の人生を見つめ直したりする中で、自身を成長させる手段として看護師を目指したことを表現していた。看護専門学校に入学して間もないこの時期は、医学・看護学の基礎科目が始まり、学生たちは自分が看護師を目指していることを実感し始める時期といえる。このワークは、看護学生としての成長に縛ることなく、これからの自分をどのように成長させたいかを考える機会として企画したものであった。しかし、学生たちは自分自身の中に「看護師となる自分」を明確に位置づけていることがうかがえた。

堀井らは「看護学生の看護師としてのアイデンティティ形成は入学時から始まっている（堀井ほか2008, pp.17-18）」と述べている。看護師になる自分を自覚することは、学生が主体的に学ぶ原動力となるものと筆者らは考える。また、堀井らは「学生の看護を学びたい思いの強さを維持していくためには自分はなぜ看護を学ぼうと思ったのか（志望動機）という事を常に学生自身が問い返し、自分が他者の命を預かる専門職になるという事を自覚できるように関わる必要がある。（堀井ほか2008, pp.17-18）」と述べている。学生が積極的に志望動機や専門職としての自覚を喚起できるような機会を教員が作り、学生の学習や成長を支援する必要がある。きゅうちゃんを使った本実践は、看護師を目指す意味を問いかけ、看護師としてのアイデンティティを作品として言語化することの一助となったと考える。今後も継続的にきゅうちゃんを活用することで、看護を学ぶ思い

の強さをふりかえったり、維持したりすることが可能なのではないだろうか。

また、多くの作品に共通して表現されていたものが2つある。ひとつ目は自身の健康管理である。今回紹介した8つの作品中にも「おいしいもの食べて」「鍛える」など、心身の健康に気遣うフレーズで自己の健康を表現しているものが多く見られた。2つ目の共通点は、仲間との助けあいを成長のひとつとして表現していたことである。学生たちは専門性の高い学習や、臨地実習を乗り越えていかななくてはならないという漠然とした不安を抱いている。このような一人では乗り越えられないストレスを、同じ目標を持つ仲間と乗り越えていきたいと願っていることが多く表現されていた。複数の先行研究では学生の就学意欲あるいは学習意欲を支えるものに学生間のコミュニケーションや学内友人の多さが影響していることが示唆されている（青柳2021・原ほか2018・佐藤2013）。第1筆者の勤務校は年齢や社会経験に違いのある学生たちが多く混在している。そのような学生たちのコミュニケーションが短期間で深まることは容易ではないとの印象を持つ。しかし看護の対象は人である。看護学生は他者に関心を寄せ、他者の価値観を理解し承認する力を研鑽し続けることが必要である。それは看護の対象ばかりでなく、看護チームに対しても同様である。学生生活を仲間とともに乗り越えるという思いは看護の種が芽吹いていると受け止めたい。また、本実践を通して、就学継続という視点に限らない、自身の成長を実感していけるような支援が必要であると受け止めた。

本実践では、当初第1筆者が期待していた、具体的な成長への取り組みという点では抽象的な表現が多かったと感じる。しかし、看護師を目指す中で学習や自己管理、仲間との関係構築など、努力していこうとしている学生たちの強い思いを知ることができた。その後7月に、各クラス毎で作品の発表会を行った。クラスメイトが看護師を目指した動機やそれぞれの自己成長に向けた思いに触れる機会はそうあるものではない。個人的な

内容になるので詳細については書けないが、似ているようで自分とは違う看護師を目指すまでの葛藤や思いを真剣な眼差しで聞く様子や、発表時に言葉を詰まらせてしまうクラスメイトに「頑張れ！」と声をかける場面もあった様子から、発表会を通じて学生それぞれの心に響くものがあったことは確かである。これを機にさらに、他者を理解し尊重するという看護師として必要な力を高めていってくれると信じたい。今後も学生の努力を支えていけるような支援を考えていきたい。また、学生のコミュニケーションツールとしてきゅうちゃんの活用法を検討することも今後の課題としたい。

#### 引用・参考文献

- 青柳涼子 2021 「看護学生の就学意欲に影響を及ぼす要因」『淑徳大学大学院研究紀要』第28号 pp.19-34
- 原やよい・中島富有子・窪田恵子 2018 「看護学生の学習意欲に影響を及ぼす要因」『バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌』Vol.20 No.2 pp. 29-35
- 堀井直子・三浦清世美・久米香・横手直美・中山奈津紀・青石恵子・田中結花子・山口直巳・足立はる糸 2008 「本学看護学生の入学時における学科志望動機—志望動機を反映させた教育を探る」『中部大学生命健康科学研究所紀要』Vol.4 pp.11-20
- 石田ゆき 2022 「きゅうちゃんの歴史（Ⅰ）—誕生編—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16号 pp.29-37
- 石田ゆき 2023 「きゅうちゃんの歴史（Ⅱ）—とっても大事な『ちょこっと使い』編—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』17号 pp.31-44
- 石田ゆき 2024a 「きゅうちゃんの歴史（Ⅲ）—『出席確認』への活用—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』22号 pp.31-48
- 石田ゆき 2024b 「看図アプローチにおける

『きゅうちゃん』活用術」『看護教育』Vol.65 No.4 医学書院 pp.438-443

石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ—絵本づくり授業実践の報告—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15

佐藤美佳 2013 「看護学生の友人関係への動機づけと学習動機づけおよび自律性欲求・有能さの欲求との関連—自己決定理論の視点から—」『日本看護研究学会雑誌』 Vol.36 No.2 pp.35-46

#### 謝辞

本稿をまとめるにあたり、鹿内信善先生には実践計画についてのご指導や資料の精査等、大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

2024年10月12日 受付

2024年10月17日 受理